



# 学校の詩

令和2年 4月17日  
大野城市立御陵中学校  
校長 藤井 浩彦

## フライデー・オベーション

今日の西日本新聞のコラムに、ナイチンゲールのことが掲載されていました。彼女は1853年に始まったクリミア戦争時に、悲惨な野戦病院の様子を知り、看護婦らを率いて現地で献身的に看護活動を行った方である。ナイチンゲールは「クリミアの天使」とたたえられ、看護婦が「白衣の天使」を呼ばれるのも彼女に由来することが書かれていました。

また、4月10日金曜日に福岡市役所で始まったフライデー・オベーションについてもこの記事はふれていました。これは、新型コロナウイルス感染が拡大する中、最前線にいる医療従事者に感謝と敬意を示し、拍手を送る取組が、ヨーロッパやアメリカで広がっていることを受け、日本初の取組として行われました。福岡市役所のベランダに一斉に職員が出て、正午からのおよそ3分間拍手を続けました。庁舎の外壁には、「感謝に拍手を」と書かれた大きな横断幕が掲げられています。新型コロナウイルスに感染するリスクを背負いながら、最前線で働く医療や福祉の関係者に感謝の気持ちを伝えるこの取組を「フライデー・オベーション＝金曜日に拍手を！」と名付け、しばらくの間は続けるとのことでした。

毎日のニュースや新聞記事を見ていると、最前線で新型コロナウイルスと戦っておられる方々の状況は、本当に厳しいものがあります。新聞記事にもあったナイチンゲールの言葉、「天使とは美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する者のために闘う者である」と重なります。その状況を知ると、私は、学校が再開されず思うように自分のしたいこともできず、悩んだり苦しんだりしていたとしても、その方々はその比ではないことを実感します。不眠不休の状態の方がおられます。自宅に帰りたくても、感染のリスクを考え帰ることができず車の中で寝泊まりする方もおられると聞きました。何より、感染や死の危険と常に向き合いながら、全力で治療にあたっておられる方のことを思うと、本当に胸が苦しくなります。何もできない自分へのもどかしさを感じます。しかし、そんな厳しい中でも多くの人の「命」を救うために、「私が看なければ・・・」「私が頑張らなければ・・・」と、強い責任感と使命感をもって従事されている方の言葉を聞くと、勇気もらいます。そして人として大切なことを改めて知ることができます。私が置かれた状況の中で、自分の役割を全力で果たしていくことが私の使命だと思います。私が今年の元日に立てた目標は「日々最善」です。このことを全うしなければと思わせていただいています。

たとえ実際に、外に出て拍手を送らないとしても、心の中でしっかりと感謝と敬意の心をもつことは大切だと思います。それが金曜日の正午でなくとも、日々感謝をしながら、自分のできることを精一杯に取り組んでいくこと。そして今私たちができることは、不要不急の外出を控え、感染拡大しないよう一人一人が努力していくことが大切なのだと思います。

今日の午前中に、その記事とコメントをプリントにして、御陵中の先生方に配りました。ちょうど正午前、そのプリントを熱心に読んでくださっている先生がいました。すると、近くにいた数人の先生と職員室で拍手をし始め「よし、ちょうど12時だから感謝をこめて拍手をしよう！」と言ってくださいました。職員室にいた先生方にも呼びかけをして、ベランダで感謝の気持ちを込めて、皆さんでしばらくの間、拍手を送りました。私は、何とも嬉しい気持ちになりました。もちろん、拍手をすることが目的ではありません。最前線で必死で頑張っている方々に思いをはせることが大切なのだと思うのです。今このときも多くの方が必死で闘っていらっしゃいます。「命」と向き合い、大変な思いをされてその仕事をまっとうされています。

最前線で働いていらっしゃるすべての皆さん！心から感謝いたします！心から敬意を表します！本当に本当にありがとうございます！

そして、これをご覧になっていただいている保護者の皆様、生徒の皆さん、そしてすべての方に早く平穏で幸せな日々が訪れることを心から願ってやみません。